

まちづくり専門家プロフィール

ふりがな	うえはら けいご	
氏名	上原 啓五	
区分	アドバイザー	コンサルタント
専門分野又は得意とする分野 都市および地方計画 公園・緑地・造園の設計・監理		
主な実績		
(活動時期)	(活動実績)	
平成12年～平成20年	円通院庭園改造設計監理	松島町松島
平成13年～平成14年	航空保安大学校庭園設計監理	岩沼市下野郷
平成16年～平成17年	春風のころ庭園設計監理	仙台市太白区日辺
平成17年～平成18年	産業遺産再生事業の検討	新潟市
平成19年～平成20年	大郷ガーデンファームの検討	大郷町
資格等 技術士（建設部門） R C C M（造園） 1級造園施工管理士		
まちづくりに関する活動履歴		
(登録期間)	(名称)	
平成14年～現在	仙台市まちづくり登録専門家	
平成14年～平成15年	松島町 まちづくり委員会アドバイザー、松島寺町構想の検討	
平成15年～平成16年	名取市 関の下景観検討委員アドバイザー	
平成16年～現在	せんだい・市民の森を創る会—保存緑地の活用	
平成18年～現在	まちなか農園—まちを育てる畑	
平成21年	仁田谷地アートな森づくり	
平成22年	せんだいメディアテーク「新緑・茶・席」キッチンガーデン企画	
専門家派遣で派遣された地区		

まちづくりについて考えること

今、「まちづくり」に必要なのは「景観と環境」です。「景観設計」(ランドスケープデザイン)が「まちづくり」の中で重要な分野であるにもかかわらず一般的には理解されていません。21世紀のまちづくりは機能中心主義から脱却し、「景観」や「環境」を考慮した整備が求められています。仙台市においても、高度成長時代のまちづくりは「用・強・美」を基本とした土木・建築を中心に行われてきました。それは機能と量的充実の必要性から、どうしても「用・強」に重点が置かれ「美」に配慮する余裕がなかったからです。「美」に対する検討も必要といわれていましたが十分な具体的対応はされていませんでした。どちらかというと、利便性と機能性を重視しすぎたために「景観・環境」に対しては配慮がなく、広域的な視点での土地利用や生態系の保全などが忘れられ、地域の持つ歴史・文化・伝統・自然に対して無神経だったと思います。公共事業が物をつくること自体を目的化し、社会資本を整備するために美しい景観、歴史的な文化財や環境を壊してきました。美しさや楽しさのない「まちづくり」はそこに住む人に共感を与えないし、訪れた人にも感動を与えません。

環境先進都市を目指す仙台市の都市計画は、生物多様性を重視した環境政策と景観三法を活用した美しい景観をもつ観光都市として新たな「まちづくり」の戦略を考え、国の政策にも対応しながら仙台を再発見、再認識し、仙台の持つ固有の資源を深掘りし、地方分権を進め、自治体の責任と自己管理能力を高め、景観に配慮した社会資本整備に積極的に投資し、画一化した公共事業から土地の持つ景観・環境資源を生かした事業企画をつくり、仙台の持つ歴史や文化・伝統を生かした風土デザインによる整備計画が必要であると考えます。生活や文化・歴史が時間をかけて創り上げたものがその土地の持つ「風土」であり、風土が創り出した形が「景観」だと思います。地域による、地域のための景観づくりは地域社会がつくるもので、中央で策定した指針に基づいてつくられる景観には個性が現れません。地域の個性ある「景観」をつくるには地域が「景観」に対する問題意識を高め、少しでも多く仙台人が参加して「仙台の景観」を考えなければなりません。それが、地域の財産であると私は考えます。「仙台らしい景観」、「残したい景観」は何か、を再考することが仙台市の街づくりを考える原点になると思います。

具体的に仙台市の「まちづくり」に関して提案があります。「公園から始める都市計画」です。都市計画の中でも緑のもつ役割は重要です。日本人は昔から草花や樹木を大切にしてきました、また庭造りの技術も世界の最高水準を持っています。しかし、都市計画の中ではあまり生かされているとは思いません。シンガポールのリー・クアンユーは緑を国家戦略に使いました。それが見事に成功し、シンガポールは人と情報が集まる世界でトップクラスの国際都市になっています。仙台は「杜の都」というキーワードをすでに持っています。さらに環境先進都市を宣言しています。そこで仙台市の公園を多目的な公園機能から環境を重視した個性のある公園に再生する実験的なプログラムを考えることを提案したいと思います。

実験内容

1. 公園の利活用と維持管理を地域市民、公園管理者、専門家が協同で考える。

こうした試みは公園づくりでは一般的な試みですが、既存公園の維持管理を地域市民が考

えながら公園を育成する具体的なシステムは確立されていません。市民が直接維持管理に参加することで公園に対する認識と理解が深まり、公園を大切にすることを意識が生まれます。自分たちで考えた公園の利活用を維持管理しながら実践することが大切です。すでにある公園を対象に公園リノベーションを行なう。やれる処から、やれる人が、やれる事をおこなう。しかも、しっかりと計画して。公園づくりのワークショップはすでに常識になっていますが、維持管理に関するワークショップはあまり聞きません。公園が成熟するには、その活用方法と維持管理にあるのではないかと思います。この社会実験では生物多様性を重視した理念が必要です。仙台の都市環境を良くするために、とりあえず一番身近にある街区公園の維持管理を地域住民が考える事から始めたらどうでしょうか。

〈期待される効果・成果〉

- ・ 環境美化と景観に対する理解と関心を高める学習効果がある。
- ・ 地域で環境や公園の活用を考える事は、画一的な維持管理からきめこまかい管理が可能になり新たに地域の特色が生まれ、画一的な公園のイメージが変わる。
- ・ 公園の管理などを実際に手がけることで地域環境や公園に対して「自分の空間」という愛着が生まれる。
- ・ 公園を中心にした地域環境づくりが地域の新しい交流を生む。

2. 西公園の日本庭園再生プロジェクト。

仙台の「枯れた心」。西公園の旧市立図書館前に、鬱蒼とした樹木の中に水の無い枯れ池があります。この枯れ池は、戦後空襲で一面焼け野原となった仙台に、東京農大の造園家上原敬二先生が設計・監理し「戦後の復興を願った」失業対策事業として焼け跡から集めた石を使って造った日本庭園だそうです。

日本の公園は明治6年1月15日太政官布告16号で日本各地の名勝史跡につくられました。西公園もその中の一つで、明治8年に片平丁大町頭蕉藩門閥伊達安房、古内左近之助、大内縫殿の三邸地5,447坪を収容して櫻ヶ岡公園としてつくられた仙台市で最も古い公園です。眼下に広瀬川、背景には青葉山、そして、仙台を代表するケヤキ並木が美しい定禅寺通りと青葉通りを南北に結ぶ公園として立地しています。

今、仙台市の財政は厳しく、公共事業費はマイナスとなり、新たな公園づくりはなかなか困難な状況にあります。しかし、地球的規模で環境は悪化しており、都市環境には潤いが必要です。仙台市は『杜の都』といわれ全国的に緑豊かなまちとして知られています。この仙台で最も歴史ある西公園が今の状況では『杜の都』が泣きます。公園はその都市の文化を表すといいます、西公園は仙台を代表する美しい公園でなければならないと思います。かつては仙台の社交の場として、産業振興の中心となった公園です。西公園の「枯れた心字池」を再生し、西公園の利活用を考えてみたいと思います。

池に水を取り戻すことによって、新しい多くの生物が生まれ、枯れた心に潤いを取り戻すこ

とが出来るのではないのでしょうか。

〈期待される効果・成果〉

- ・ 仙台市で最も古い公園「西公園」を再生することで、造園技術者や造園技能の研修ができる。
- ・ 西公園で各団体が行っている活動のポリシーや目的などをお互いに知り、情報交換や意見交換を行う機会を作り、今後の活動を連携して行うことができる。
- ・ 西公園についての関心や課題、今後の計画づくりや活動に役立つ情報や知恵を収集し共有化していくことができる。

3. 未利用地の利活用考える。

道路計画の中止による未利用地、市が保有している保存緑地、その他の空き地などを活用できないか、こうした試みを地域の市民からアイデアを募集する。「花壇大手町のまちなか農園」は未着工の都市計画道路を農園にした例です。市の管理している土地を借りて有効利用する、市民が直接維持管理に参加する具体的なシステムをつくれれば有効利用が進むのではないのでしょうか。有刺鉄線などで囲われた未利用地は景観を壊しています、とりあえず緑化などを行っているところを見かけますがその費用も大変だと思います。河川敷などが参考になります。河川敷など活用してはいますが公共的な土地を勝手に使用しているようにも見えます。そこで利用するシステムやルールを策定し、運用する必要があると思います。仙台のまちづくりに未利用地の利活用と維持管理を地域住民が始めてはどうでしょうか。

〈期待される効果・成果〉

- ・ 地域で未利用地の環境・景観の美化と利活用を考えることは新たに地域の特色が生まれ、画一的なまちづくりのイメージが変わる。
- ・ 未利用地の管理などを実際に手がけることで地域環境に対して「自分の空間」という愛着が生まれる。
- ・ 未利用地の利活用と維持管理による地域環境づくりは地域の新しい交流を生む。